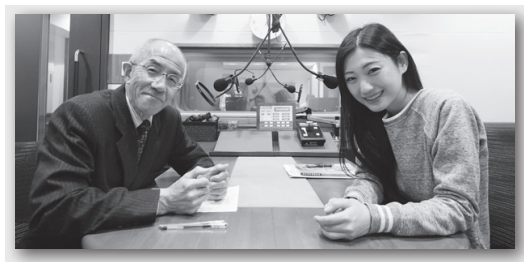




わたしたちの健康のすがた

今回の学習内容

平均寿命や死亡率などの集団の健康状態をはかるデータから導き出された健康の程度を健康水準といいます。今回、日本が世界有数の長寿国といわれる理由の一つに挙げられる平均寿命にスポットを当てて、その歴史的な変遷について紹介します。また、日本の健康水準が向上した理由やそれに伴う健康問題の変遷について解説します。



講師
杉山正明

壇蜜 先生

(学習メモ執筆)

わが国の平均寿命の変遷

平均寿命とは、今生まれた赤ちゃんがこれから先何年生きられるかという予測値のことつまり、0歳児の平均余命のことをいいます。

この平均寿命は医療や年金などの社会保障に、今後いくらお金がかかるのか？などを予想するのに使われたりして、幅広く活用されています。2014年度の日本人の平均寿命は、男性80.5年、女性86.8年と世界トップクラスの長寿国となっています。

ここでは江戸時代の中頃から現在までの平均寿命の変遷を見つめながら、その理由について学びます。

わが国の健康水準向上の背景

日本の平均寿命は戦後の高度経済成長とともに急激に延びてきました。1935年（昭和10年）から1985年（昭和60年）までの50年間では、日本の平均寿命はおよそ30年も延びています。その要因として考えられるのが乳児死亡率と高齢者の死亡率の改善といった健康水準の向上です。

健康水準の向上の理由について、保健制度や生活環境の変化などとの関連を通して学びます。

わが国における健康問題の変遷

今、日本人の平均寿命は高い水準を維持していますが、その一方で現代社会特有の病気など、新たな健康問題が生じてきています。それらの健康問題は、どのように変化してきたのか？歴史を振り返りながら、わが国の死因などをもとにして学びます。

【参考資料】

1. 日本の平均寿命の変遷

時代 (年代)	男性	女性
1771 ~ 1870年 (江戸)	27.8	28.6
1899 ~ 1903年 (明治 32 ~ 36年)	43.97	44.85
1921 ~ 25年 (大正 10 ~ 14年)	42.1	43.2
1935年 (昭和 10年)	46.9	49.6
1945年 (昭和 20年)	23.9	37.5
1947年 (昭和 22年)	50.06	53.96
1955年 (昭和 30年)	63.6	67.7
1965年 (昭和 40年)	67.7	72.9
1981年 (昭和 56年)	73.79	79.13
1985年 (昭和 60年)	74.78	80.48
2014年 (平成 26年)	80.50	86.83

(出典：「2015/2016 国民衛生の動向」厚生労働統計協会、
「保健体育ワークシート」 杉山正明 一橋出版、2004. 3 杉山一部改変)

2. 日本の死因の変遷

年次	第一位	第二位	第三位	第四位	第五位
明 32	肺炎・気管支炎	脳血管疾患	全結核	胃腸炎	老衰
大 9	肺炎・気管支炎	胃腸炎	全結核		
昭 5	胃腸炎	肺炎・気管支炎	全結核	脳血管疾患	老衰
昭 10	全結核	肺炎・気管支炎	胃腸炎		
昭 15	全結核	肺炎・気管支炎	脳血管疾患	胃腸炎	老衰
昭 22	全結核	肺炎・気管支炎	胃腸炎	脳血管疾患	老衰
昭 25	全結核	脳血管疾患	肺炎・気管支炎	胃腸炎	悪性新生物
昭 29	脳血管疾患	悪性新生物	老衰	全結核	心疾患
昭 35	脳血管疾患	悪性新生物	心疾患	老衰	肺炎・気管支炎
昭 50	脳血管疾患	悪性新生物	心疾患	肺炎・気管支炎	不慮の事故
昭 56	悪性新生物	脳血管疾患	心疾患	肺炎・気管支炎	老衰
昭 60	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎・気管支炎	不慮の事故
平 元	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎・気管支炎	不慮の事故
平 25	悪性新生物 (28.8%)	心疾患 (15.5%)	肺炎 (9.7%)	脳血管疾患 (9.3%)	老衰 (5.5%)

(出典：「2015/2016 国民衛生の動向」厚生労働統計協会、杉山一部改変)